

# 沖縄シャーマニズムについての実態調査

## A Survey of the Shamanism's Situation in Japan Okinawa

**脇本 忍**

Wakimoto Shinobu

聖泉大学人間学部

**方 予辰**

Fang Yuchen

聖泉大学人間学部学生

**隆 重**

Long Zhong

聖泉大学人間学部学生

### 要 約

本研究は、沖縄のシャーマニズムと沖縄在住者の不思議現象についての認知に関する実証研究の報告と、神職者の上位者であるノロと呼ばれる女性司祭者の聞き取り調査を沖縄県今帰仁村の今帰仁ノロ殿内で実施した記録である。

沖縄県那覇市で実施した質問紙調査では不思議現象に対する態度構造の分析および類型化尺度の30項目にユタに関する1項目と性格に関する3項目を加えた34項目について、88名を調査対象とした結果、恐怖に関連する項目において女性は男性よりも高いことが明らかにされた。

沖縄県今帰仁村で実施されたノロへの聞き取り調査からは、従来のステレオタイプとしてノロは霊能を携えた司祭者としてとらえていたが、司祭者として粛々と祈ることが主な役割であることが推察された。

Key Word: 沖縄、シャーマニズム、不思議現象、ノロ

### 1. 問題

#### 沖縄のシャーマニズム

現代社会は、モノやカネを優先した経済優先主義からの脱却と相まって、一部ではスピリチュアルブームと呼ばれ、科学では明らかにされない事象について関心を深める人々が見受けられる。あやふやな実態はあるものの、何をもってスピリチュアルと呼んでいるかを見定めるのは困難だろう。なかでもシャーマニズムの定義や位置づけは曖昧だと考えられる。長野（1971）は、シャーマニズムに関する研究の潮流について、1.シャーマニズムを原始的病理学とアニミズムまたはアニマティズムと連関させ、全世界の人類の進化の一過渡期的現象としてとらえる説。2.シャーマニズムをもつばら極北地帯の減少として南下

するにつれて衰退したとする説。3.理論を純粹エクスタシーの上に立てて、シャーマニズム的メンタリティーは潜在的にほぼ全人類に発生し得るものという理由づけを行う説。4.シャーマンの精神構造を心理的、精神病理学的に究明し、これとシャーマンの属する社会との合理的関連を主張する説。5.社会学的、文化人類学的な研究傾向。これらの5つに分別している。

沖縄では、神職者の通称である神人（カミンチュ）の上位者である女性司祭者はノロと呼ばれ、シャーマンといわれる存在はユタと呼ばれている。ユタは、現在でも市民生活の相談者としての役割をはたしている。ノロは祈りを務めることが役割であり、日常の市民生活との関りはほとんどない。渋谷（1992）によると、ノロとユタという異なる職能者の発生をめぐるものとして、ノロが先であるというノロ先行説やシャーマニズムからの視点があり、沖縄の宗教的職能者を鑑みる場合、霊的存在との関わり方を無視するわけにはいかず、カミダーリと呼ばれる事象がシャーマニズム論での精霊憑依（spiritual-possession）に相当するものとされている。カミダーリの起きる時期や症状は異なり、身体に地図状の模様が出るなどの症状があり、また言動も同年齢の子供とは違っていたという報告がある。神役を輩出すべき系統に生まれた者が起こす心身異常とそうでないところに生まれた者が起こすそれとでは明確に区別される。様々なカミダーリの体験があっても、誰も最初は神役に就くことを拒んでいることである。神役には日常生活、神事を含めて様々な制約が課されるので、その厳しさに対して己れの非力、無能さを理由に神役就任の決心を洩るのである。しかし、いつまでも態度を保留していると一層激しいカミダーリに見舞われると推察されている。

渋谷はさらに、「そして最後にはその苦痛に耐えかねるようにして神役となる決心を固めるのである。このような拒否→更なるカミダーリ→承諾という過程は、高位の神役であればより顕著に表現される。すなわち、高位の神役であるほど制約も厳しく神役としての霊的能力も一層問われることになる。そのため、荷が重すぎると拒否するが神は承知しない。そこで耐え難いほどのカミダーリが発生し遂にそれに屈伏する形で神役に就いていくのである。このとき、カミダーリが激しいほど神の意志が強いものと解される（一部省略）」と述べている。

### 先行研究

沖縄のシャーマニズムの関連研究では、ユタについての研究が圧倒的に多く、ノロの研究は数少ない。神霊による召命、心身異常、その後の修業、神霊接触の技術の修得という

一連の流れのなかに常に人間と神霊との交流があり、それが往々にして憑依という現象を伴ったことは、シャーマニズム研究者の関心を否応なく高め、憑依現象だけをとってみてもこれまでの成果は、神が憑くと一言で表現できるほどに単純なものではなく、人格に影響を与える霊媒型、人格をある程度統制する預言者型、人格をほぼ完全に統御する見者型と多様であることを明らかにされてきた。渋谷は、「そもそも日本本土、沖縄を含めた宗教的職能の研究は、この概念が使用される前は巫現・巫・巫術などの語で表記されることが多かったが、巫の定義は曖昧なまま安易に使用されたきらいがあり、この語の通用する地域が限られていたために比較研究への進展は臨むべきもなかった。そこに比較という視座を考慮にいたした場合、シャーマニズムの概念は極めて魅力的なものだったのである」と指摘している。

近年においては、これらについて、昨今のスピリチュアルブームともいえる社会現象により、歴史学や民俗学の視点だけではなく、超常現象や不思議現象としてとらえて興味や関心を抱き始めた人々も多くいることが推察できる。

一方で、ユタが迫害されてきた時代があった。濱（2011）によると、「ユタはかつて沖縄の生活にとって足枷であるかのように否定的な存在として評価されることが多かった。ところが近年では資源のような肯定的な存在として評価されることも増えてきた。これは琉球・沖縄史における大きな変動期と重なっていると指摘しながらも、政策的・商業的な文化資源化を批判的に分析する必要がある。このように社会的に差別弾圧された歴史を背負うユタが、学問対象としての認知を得て、各分野での研究に進展をみせてきた」と述べ、ユタに対する偏見があった時代があったことがうかがえる。

また、ノロとユタの関連について、渋谷はノロとユタの共存と葛藤をめぐる問題としてつぎのように指摘している。「(一部省略) 両者を視野に入れた報告、考察は十分な進展がみられなかった。その要因としてあげられるのがユタに対する社会的評価である。淫祀邪教の加担者としてユタは弾圧され、およそ学問の対象として認知されるような状況ではなかったのである。しかし、指摘したようにシャーマニズムの概念の導入がひとつの契機となり、ようやくユタ研究も積極的に行なわれるようになった。この点は評価したいところだが、留意しておきたいのはユタ研究の進展が必ずしもノロとユタ双方を含めた包括的研究の進展に繋がらなかったことである。この要因は両者のもつ呪術・宗教的性質・役割の違いに求めることができよう。ノロは地域社会の中で明確に制度化され組織化されたものであるのに対し、ユタはそのような原理原則はなく存在している。それ故ノロは他の親族

組織、社会組織との関わりの中で論じられることが多く、一方ユタはもっぱらシャーマニズムの視点からの研究が盛んに行なわれたのである。換言すればノロは制度面から研究され、ユタはシャーマニズムを基盤にして個人に焦点をおいて研究されてきたといえよう。その結果沖縄の宗教的職能者に関する研究は量的には相当数の成果をあげることはできたが、ノロとユタのいずれか一方を扱ったものがその大部分を占めることになったのである。この指摘からは、ノロとユタという存在を、スピリチュアルブームで関心が募る超常現象のように、同じ視点から語ることに自体に無理があると言わざるをえない。

つぎに、社会心理学の立場からは、大橋（1998）の研究が詳しい。大橋は、「社会心理学は心理学の下部部門ではなく、基本的には、パーソナリティ心理学・社会学・文化人類学の接合点にある。そして、これらの諸学と同列に並ぶ独立した個別科学としての位置を占めるとともに、これら諸学を媒介させる役割を担う。すなわち、社会心理学は、パーソナリティ・社会・文化の3視点を有機的に統合させて人間現象を理解する科学である。したがって社会心理学者は、取り扱うトピックや関心に即して、ある場合には社会・文化と関連づけてパーソナリティに焦点をあて、ある場合にはパーソナリティ・文化と関連づけて社会に焦点をあて、ある場合にはパーソナリティ・社会と関連づけて文化に焦点をあてることになる」と述べ、社会心理学の視点からは、地域住民にとってシャーマニズムとは何かを理解することが、シャーマンの理解に劣らない重要性をもつことから、面接調査を行なう際に、シャーマニズムという現象が他の文化要素から独立に存在・存続するのではなく、さまざまな文化要素と葛藤し、拮抗あるいは共存する関係のなかにあり、外来宗教・新民法・現代医療という現代社会の3側面に着目し、シャーマニズムと外来文化との動的な関係を文化のレベルでのみ議論するのではなく、個々人の行動と態度の動態把握から文化要素の関係を議論する方向が社会心理学では求められると考えられる。

本研究の目的は、日常生活においてシャーマニズムと密接な関係がある沖縄在住の人々の非科学的事象や不思議現象への認知や対処の実態を明らかにすること。さらに、これまでの研究ではユタ研究と比べて圧倒的に数少ないノロ研究の糸口として、ノロとの面談によりノロの実態をうかがうことである。

## 2. 方法

### 研究1. 沖縄在住者への質問紙調査

日時：2019年8月23～9月10日

場所：那覇市

対象者 那覇市在住者の男女 88 名（平均年齢 29.41 歳，標準偏差 16.42）、社会人 30 名（男性  $n=13$ ，女性  $n=17$ 、平均年齢 49.63 歳，標準偏差 12.84）、学生 58 名（男性  $n=51$ ，女性  $n=7$ 、平均年齢 18.95 歳，標準偏差 1.02）。

質問項目 小城・坂田・川上（2008）の「不思議現象に対する態度：態度構造の分析および類型化」尺度の 30 項目にユタに関する 1 項目と性格に関する 3 項目を加えた 34 項目について、「全くそうではない=1～非常にそう=5」の 5 件法で回答を求めた（留置法）。

質問紙の内容を Table1 に示した。

Table 1 不思議現象に対する態度およびユタ/性格についての質問紙

占い・呪術嗜好性 因子	1.	占いは当たると思う
	2.	血液型性格判断を活用すれば、うまく生きることができると思う
	3.	占いなどの科学的根拠がないことを信じる
	4.	占い（ユタ）で悪い結果が出ると、気分が沈む
	5.	家族や知り合いの中に、占いを信じる人がいる
スピリチュアリ ティ信奉 因子	6.	神仏に無礼を働くと、罰が下ると思う
	7.	神仏が存在すると考えると安心する
	8.	死後の世界に行けば、祖母屋、かわいがっていたペットなど、死者に再び会えると思う
	9.	輪廻転生を人信じている
	10.	受験など、人生の転機には、神仏に頼りたくなる
娯乐的享受 因子	11.	超能力はおもしろい
	12.	UFOの存在を信じている
	13.	心霊写真や心霊現象の話題は会話を盛り上げる
	14.	たたりの話題は、会話を盛り上げる
	15.	地球以外にも、生命体は存在していると思う
懐疑 因子	16.	心霊写真にはトリックがあると思う
	17.	心霊写真は、単なる思い込みに過ぎない
	18.	不思議現象にはトリックがあると思う
	19.	心霊写真は本物だと思う
	20.	不思議現象はすべて科学で説明できる
恐怖 因子	21.	UFOに恐怖を感じる
	22.	UFOが存在すると考えると不安になる
	23.	超能力は怖い
	24.	占いは怖い
	25.	おまじないは怖い
霊体験 因子	26.	自分は靈感がある方だ
	27.	霊を見たことがある
	28.	たたりに襲われたことがある
	29.	家族や知り合いの中に、たたりに襲われた人がいる
	30.	予知夢を見たことがある
ユタに関する	31.	ユタが告げることを信じて従う
	32.	自分は神経質だ
性格に関する	33.	自分に自信がある
	34.	人間は弱い存在だと思う

### 3.結果

男女ごとの因子得点平均値および標準偏差値を Table2 に示した。因子構造は小城らの先行研究に基づき、各因子は5つの質問項目から構成される。小城らが明らかにした因子構造では、第1因子は占いやおまじないを活用し、信奉する項目に「占い・呪術嗜好性」と命名された。第2因子は神仏や心霊や前世を信奉する項目に「スピリチュアリティ信奉」と命名された。第3因子は超能力やUFOなどをエンターテイメントとして楽しむ項目に「娯楽的享受」と命名された。第4因子は不思議現象に懐疑の目を向け、その神秘性を否定しようとする態度を示す項目に「懐疑」と命名された。第5因子はUFOや超能力や占いに恐怖を感じる項目に「恐怖」と命名された。第6因子は心霊現象の体験に関する項目に「霊体験」と命名された。因子得点(5項目の合計)平均値ごとに、対応のない  $t$  検定を行い、結果を Table2 に示した。

Table 2 男女ごとの因子得点平均値(標準偏差)および対応のない  $t$  検定の結果

	占い・呪術 嗜好性	スピリチュアリティ 信奉	娯楽的 享受	懐疑	恐怖	霊体験
男( $n=64$ )	13.11 (4.24)	13.77 (4.98)	18.67 (5.18)	15.88 (3.99)	9.55 (4.58)	8.41 (4.47)
女( $n=24$ )	13.79 (3.02)	17.04 (4.19)	17.00 (4.84)	14.13 (3.88)	12.67 (5.68)	8.00 (3.68)
$t$ 検定の結果	<i>n.s.</i>	**	<i>n.s.</i>	†	*	<i>n.s.</i>

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , †  $p < .10$

その結果、女性のスピリチュアリティ信奉因子得点は男性より有意に高かった ( $t(48.86) = 3.10, p = .003$ )。女性の恐怖因子得点のも男性より有意に高かった ( $t(34.82) = 2.41, p = .021$ )。また、男性の懐疑因子得点は女性より有意に高かった ( $t(42.40) = 1.87, p = .069$ )。占い呪術嗜好性因子得点・娯楽的享受因子得点・霊体験因子得点では、男女の有意な差は認められなかった(占い呪術嗜好性:  $t(57.96) = 0.84, p = .405$ ; 娯楽的享受:  $t(44.03) = 1.42, p = .164$ ; 霊体験:  $t(49.84) = 0.43, p = .666$ )。

つぎに、男女ごとの各因子得点の平均値に関して、一要因分散分析と多重比較の結果を Table3 に示した。

①男性の1要因分散分析を行った結果、不思議現象に対する態度の主効果は有意となった。(  $F(5, 315) = 67.82, p < .001$  )。多重比較(HoIm法)の結果、娯楽的享受が他の

Table 3 各因子得点平均値(標準偏差)および分散分析結果

	男( <i>n</i> =64)		女( <i>n</i> =24)	
占い・呪術嗜好性 (A)	13.11	(4.24)	13.79	(3.02)
スピリチュアリティ信奉 (B)	13.77	(4.98)	17.04	(4.19)
娯乐的享受 (C)	18.67	(5.18)	17.00	(4.84)
懐疑 (D)	15.88	(3.99)	14.13	(3.88)
恐怖 (E)	9.55	(4.58)	12.67	(5.68)
霊体験 (F)	8.41	(4.47)	8.00	(3.68)
多重比較の結果	(C)>(A)(B)(D)(E)(F), <i>p</i> <.01 (D)>(A)(E)(F), <i>p</i> <.01 (D)>(B), <i>p</i> <.05 (A)(B)>(E)(F), <i>p</i> <.01 (A)・(B), <i>n.s.</i> (E)・(F), <i>n.s.</i>		(A)(B)(C)(D)>(F), <i>p</i> <.01 (E)>(F), <i>p</i> <.05 (B)(C)>(A)(E), <i>p</i> <.05 (B)・(C), <i>n.s.</i> (B)・(D), <i>n.s.</i> (D)・(A), <i>n.s.</i> (D)・(E), <i>n.s.</i> (C)・(D), <i>n.s.</i> (A)・(E), <i>n.s.</i>	

因子得点よりも有意に高かった ( A:  $t(63) = 8.85, p < .001$ ; B:  $t(63) = 7.89, p < .001$ ; D:  $t(63) = 3.64, p = .002$ ; E:  $t(63) = 13.92, p < .001$ ; F:  $t(59) = 13.23, p < .001$  )。懐疑が占い呪術嗜好性・スピリチュアリティ信奉・恐怖・霊体験の因子得点よりも有意に高かった ( A:  $t(63) = 4.14, p = .001$ ; B:  $t(63) = 2.76, p = .023$ ; E:  $t(63) = 9.97, p < .001$ ; F:  $t(59) = 10.10, p < .001$  )。占い呪術嗜好性が恐怖・霊体験因子得点よりも有意に高かった ( E:  $t(63) = 6.81, p < .001$ ; F:  $t(63) = 8.14, p < .001$  )。スピリチュアリティが恐怖・霊体験よりも有意に高かった ( E:  $t(63) = 7.47, p < .001$ ; F:  $t(63) = 7.81, p < .001$  )。また、スピリチュアリティ信奉と占い呪術嗜好性と、恐怖と霊体験には有意な差は認められなかった (*n.s.*)。

②女性の1要因分散分析を行った結果、不思議現象に対する態度の主効果は有意となっ

た ( $F(5, 115) = 16.68, p < .001$ )。多重比較 (Holm 法) の結果、占い呪術嗜好性・スピリチュアリティ信奉・娯楽的享受・懐疑・恐怖因子が霊体験より有意に高かった (A:  $t(23) = 8.25, p < .001$ ; B:  $t(23) = 8.48, p < .001$ ; C:  $t(20) = 8.84, p < .001$ ; D:  $t(20) = 5.30, p = .001$ ; E:  $t(63) = 3.39, p = .023$ )。

スピリチュアリティ信奉が占い呪術嗜好性・恐怖因子より有意に高かった (A:  $t(23) = 3.78, p = .011$ ; E:  $t(23) = 8.48, p = .023$ )。娯楽的享受が占い呪術嗜好性・恐怖より有意に高かった (A:  $t(23) = 3.28, p = .023$ ; E:  $t(23) = 3.50, p = .019$ )。また、スピリチュアリティ信奉と娯楽的享受・スピリチュアリティ信奉と懐疑・懐疑と占い呪術嗜好性・懐疑と恐怖・懐疑と娯楽的享受・占い呪術嗜好性と恐怖には有意な差は認められなかった (*n.s.*)。

つぎに、各群の各因子得点の平均値および標準偏差を Table4 に示した。

Table 4 各条件における各因子得点の平均値 (標準偏差)

	占い・呪術 嗜好性	スピリチュアリティ 信奉	娯楽的 享受	懐疑	恐怖	霊体験
社会人男性 ( <i>n</i> =13)	13.31 (2.69)	15.23 (5.13)	18.54 (5.62)	14.23 (3.06)	9.46 (4.18)	7.92 (4.15)
社会人女性 ( <i>n</i> =17)	14.41 (2.96)	17.94 (3.72)	17.00 (5.41)	13.53 (4.35)	14.00 (5.59)	8.41 (4.11)
学生男性 ( <i>n</i> =51)	13.06 (4.57)	13.39 (4.92)	18.71 (5.12)	16.29 (4.11)	9.57 (4.71)	8.53 (4.58)
学生女性 ( <i>n</i> =7)	12.29 (2.81)	14.86 (4.74)	17.00 (3.42)	15.57 (1.99)	9.43 (4.79)	7.00 (2.31)

つぎに、各因子得点と Q31~Q34 の相関分析結果を Table5 に示した。

男女ごとの結果により、Q31「ユタが告げることを信じて従う」について、男性の占い呪術嗜好性、スピリチュアリティ信奉、娯楽的享受、恐怖、霊体験と有意な相関が認められた (A:  $r = .42, p < .001$ ; B:  $r = .54, p < .001$ ; C:  $r = .27, p = .030$ ; E:  $r = .45, p < .001$ ; F:  $r = .42, p = .001$ )。女性の娯楽的享受、恐怖と有意な相関が認められた (C:  $r = .35, p = .089$ ; E:  $r = .73, p < .001$ )。

Q32「自分は神経質だと思う」について、男性・女性の各因子間と有意な相関が認められなかった (*n.s.*)。

Q33「自分に自信がある」について、女性の霊体験と有意な相関が認められた (F:  $r = .50, p = .014$ )。男性の各因子間とは有意な相関が認められなかった (*n.s.*)。



Table 5 男女ごとの因子得点とQ31~Q34および年齢の相関分析の結果

項目	占い・呪術嗜好性(A)	スピリチュアリティ信奉(B)	娯乐的享受(C)	懐疑(D)	恐怖(E)	霊体験(F)
男性(n=64)						
Q31ユタが告げること信じて従う	.42 **	.54 **	.27 *	-.12	.45 **	.42 **
Q32自分は神経質だ	-.16	.01	-.05	.11	.19	.11
Q33自分に自信がある	-.07	.07	.18	.11	.02	.06
Q34人間は弱い存在だと思う	.43 **	.29 *	.09	.00	.31 *	.21 †
女性(n=24)						
Q31ユタが告げること信じて従う	.19	.08	.35 †	-.13	.73 **	.24
Q32自分は神経質だ	-.05	.08	-.09	.12	.21	-.25
Q33自分に自信がある	.03	.04	.35	-.15	-.15	.50 †
Q34人間は弱い存在だと思う	.09	-.18	.42 *	.15	.05	.31
社会人男性 (n=13)						
Q31ユタが告げること信じて従う	.48 †	.62 *	.58 *	-.39	.49 †	.58 *
Q32自分は神経質だ	-.14	-.50 †	-.54 †	.52 †	-.20	-.15
Q33自分に自信がある	-.64 †	-.49 †	-.29	.57 *	-.38	-.47
Q34人間は弱い存在だと思う	-.30	-.35	.07	.31	-.40	-.60 †
学生男性 (n=51)						
Q31ユタが告げること信じて従う	.42 **	.52 **	.22	-.06	.45 **	.41 **
Q32自分は神経質だ	.20	.11	.04	.04	.25 †	.15
Q33自分に自信がある	.01	.18	.32 †	.09	.11	.19
Q34人間は弱い存在だと思う	.49 **	.36 *	.10	.03	.41 **	.33 †
社会人女性 (n=17)						
Q31ユタが告げること信じて従う	.07	-.26	.40	-.14	.70 **	.29
Q32自分は神経質だ	-.26	.00	-.16	.09	.19	-.39
Q33自分に自信がある	.12	.20	.39	-.17	.03	.61 †
Q34人間は弱い存在だと思う	.20	.01	.56 †	.10	.21	.34
学生女性 (n=7)						
Q31ユタが告げること信じて従う	.33	.54	.27	.02	.87 †	.00
Q32自分は神経質だ	.71 †	.43	.19	.02	.59	.45
Q33自分に自信がある	-.11	-.29	.13	-.32	-.88 **	.00
Q34人間は弱い存在だと思う	-.21	-.71 †	-.46	.54	-.52	.30
男性年齢 (n=64)						
	.02	.09	-.02	-.06	.02	-.14
女性年齢 (n=24)						
	.25	.28	.11	-.12	.42 †	.09

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , †  $p < .10$

Q34「人間が弱い存在だと思う」について、男性の占い呪術嗜好性、スピリチュアリティ信奉、恐怖、霊体験と有意な相関が認められた（A:  $r = .43$ ,  $p < .001$ ; B:  $r = .29$ ,  $p = .020$ ; E:  $r = .31$ ,  $p = .012$ ; F:  $r = .21$ ,  $p = .098$ ）。女性の娯乐的享受と有意な相関が認められた（C:  $r = .42$ ,  $p = .042$ ）。

各群の結果からは、Q31「ユタが告げること信じて従う」について、社会人男性の占い呪術嗜好性、スピリチュアリティ信奉、娯乐的享受、恐怖、霊体験と有意な相関が認められた（A:  $r = .48$ ,  $p = .093$ ; B:  $r = .62$ ,  $p = .022$ ; C:  $r = .58$ ,  $p = .039$ ; E:  $r = .49$ ,  $p = .092$ ; F:  $r = .58$ ,  $p = .036$ ）。学生男性の占い呪術嗜好性、スピリチュアリティ信奉、恐怖、霊体験と有意な相関が認められた（A:  $r = .42$ ,  $p = .002$ ; B:  $r = .52$ ,  $p < .001$ ; E:  $r = .45$ ,  $p = .001$ ; F:  $r = .41$ ,  $p = .003$ ）。社会人女性と学生女性の恐怖と有意な相関が認められた（社会人女性:  $r = .70$ ,  $p = .002$ ; 学生女性:  $r = .87$ ,  $p = .012$ ）。

Q32「自分は神経質だと思う」について、社会人男性のスピリチュアリティ信奉、娯乐的享受、懐疑と有意な相関が認められた（B:  $r = -.50$ ,  $p = .083$ ; C:  $r = -.54$ ,  $p = .059$ ;

D:  $r = .52$ ,  $p = .070$  )。学生男性の恐怖と有意な相関が認められた ( E:  $r = .25$ ,  $p = .078$  )。学生女性の占い呪術嗜好性と有意な相関が認められた ( A:  $r = .71$ ,  $p = .077$  )。

Q33「自分に自信がある」について、社会人男性の占い呪術嗜好性、スピリチュアリティ信奉、懐疑と有意な相関が認められた ( A:  $r = -.64$ ,  $p = .018$ ; B:  $r = -.49$ ,  $p = .086$ ; D:  $r = .57$ ,  $p = .041$  )。学生男性の娯乐的享受と有意な相関が認められた ( C:  $r = .32$ ,  $p = .020$  )。社会人女性の霊体験と有意な相関が認められた ( F:  $r = .61$ ,  $p = .012$  )。学生女性の恐怖と有意な相関が認められた ( E:  $r = -.88$ ,  $p = .009$  )。

Q34「人間が弱い存在だと思う」について、社会人男性の霊体験と有意な相関が認められた ( F:  $r = -.60$ ,  $p = .029$  )。学生男性の占い呪術嗜好性、スピリチュアリティ信奉、恐怖、霊体験と有意な相関が認められた ( A:  $r = .49$ ,  $p < .001$ ; B:  $r = .36$ ,  $p = .010$ ; E:  $r = .41$ ,  $p = .003$ ; F:  $r = .33$ ,  $p = .019$  )。また、社会人女性の娯乐的享受と有意な相関が認められた ( C:  $r = .56$ ,  $p = .019$  )。学生女性のスピリチュアリティ信奉と有意な相関が認められた ( B:  $r = -.71$ ,  $p = .072$  )。

男女における因子得点と年齢の相関分析の結果を Table5 に示した。男性の年齢はすべての因子得点と有意な相関が認められなかった (*n. s.*)。また、女性の年齢は恐怖因子と有意な相関が認められた ( E:  $r = .42$ ,  $p = .043$  )。

## 研究 2. ノロとの対面調査

日時 2019年8月20日・24日

場所 沖縄県今帰仁村今泊今帰仁ノロ殿内 (ナキジンノロドゥンチ)

今帰仁ノロさん (仲尾次ヨシ子さん) と、ノロさんの次女で次代継承予定の玉城玲子さんに、ご自宅でもある今帰仁ノロ殿内でインタビューを実施した。さらに、三女である仲田艶子さんがブログを開設し、ノロと今帰仁について語られている。以下に一部を紹介する。

### 今帰仁ノロ殿内

今帰仁ノロ殿内は、沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊に位置する。今帰仁城跡を起点とする主な拝所 (ウガンジュ) を今帰仁上り (ナキジンヌブイ) と呼ぶ。主な今帰仁グスク内の拝所は、カラウカー・火の神 (ヒヌカン) の祠・テンチヂの御嶽・ソイツグの御嶽・クボウ御嶽がある。今帰仁城跡は沖縄北部の観光地としても人気があり、観光バスやレンタカ



図 1. 今帰仁城跡

一で賑わっている。今帰仁城跡に向かう緩やかな坂を上る手前に、火の神を祀った祠をかかえる今帰仁ノロ殿内がある。今帰仁ノロは、今帰仁・親泊・志慶真ムラの神女（ノロ）を統率して、今帰仁城の拝所や今帰仁城周辺の聖地で祭祀を行ったと伝えられている。薩摩侵攻（1609）で今帰仁城が攻め落とされ、現地に所在した屋敷が破壊されたため今泊集落に移っている。ノロは世襲制であり、現在は末裔の仲尾次家が殿内を構えている。

現在は、今帰仁ノロ 9 代目以前までは明らかにされている。その根拠としてノロは、死後は先祖の墓に葬られずにノロ墓に入る。そこに現在は骨壺で明らかになった遺骨と散乱されている遺骨があり、骨壺で確認されている先代から数えて 9 代目だが、それ以前からノロが存在したことは、遺骨以外のその他資料から確認されている。

今帰仁城跡からは、近くに眺望できる古宇利島には北側にティヌ浜があり、何千年もの波の浸食でできたハート型の岩がある。そのことから古宇利島は沖縄版アダムとイブの伝説が残る恋の島とも呼ばれている。さらに、沖縄全県でも屈指の写真撮影スポットといわれる古宇利大橋が 2005 年に完成し、観光客誘致に貢献している。ノロさんは、その古

利島について特別な存在であると独自の見解を述べられた。今帰仁城跡の祈りの場所である拝所（ウガンショ）は、すべて海を挟んだ古宇利島の方向に向いているということだ。恋の島としてのロマンティックな古宇利島の沖縄版アダムとイブ伝説を歴史的事実とするように、琉球人の始まりは古宇利島であるとして崇められている。

#### 今帰仁ノロさんへのインタビュー

(Interviewer) さっきは今帰仁城へ行きました。

(ノロさん) 今帰仁とか言いますけどね、ほんとは北山城なんですよ。北山なんの、今帰仁なるから、今帰仁って言うんで。年間、あつちは2回の・・・、えいっとね、何月かな、5月と9月、今は私、脚痛いから、歩いてけないよ、1キロは歩くもん、こっちまで、昔はそうなんの、男の人はこっち待って、・・・。

(Interviewer) 御嶽（ウタキ）のところって、パワー、感じていますか？

(ノロさん) パワー？うん・・・パワーって、これは、どういうことなのかね？みんなパワーを探してあるけどね？うん、うちのこの木は、パワーがあるっていうけど、私って、あるかどうか、(笑) みんな、パワーがあるって参りに来るんだ、うん、パワースポットって・・・私わからん。(笑) どういうことかわからんだわ。うん、でも、超有名ですよ、こっちはパワースポットって言って、みんな参りに（殿内に）来るんですけどね、私、考えられない。(笑) で、バス乗って行って、あ、こっちはなんか感じるって、降りてくるんですよ、バスにいるのに、本土の人も2回って言ったけど、何とか感じるというけど、私は靈感ないのか？(笑)、全然、こういうのを。それでも、ノロを40年ぐらいやってるんだね、でも私はお祈りだけ、うん、お願いしますじゃない、ありがとうのお祈りだけ、うん、そう、お願いしますはない、ありがとうのお祈りだけ、みんなのためのお祈りだけ、もうずっと40年ぐらい、この・・・うちが全部やってるけど、うん、うん、ありがとうのお祈りだけよ、お願いしますじゃない、うん。

(Interviewer) テレビで観たんですけど、なんか、沖縄最強ユタ、という人がいます。なんか、すごい感じで、名前と誕生日だけ教えて、あの人についてのこと全部感じられるとありますが・・・。

(ノロさん) そうそうそう、そういう人いらっしゃるよ、ほんとうにわからない、うん、当たっているかどうかわからん。ああいう人はユタっていつて。沖縄には、いたわ。ユタは、だけど、この人の言うのは当たるかどうかわからない。こっちは祈り、お祈りするだけよ、うん、ありがとうのお祈りするだけ、なんかね、・・・守ってくれてありがとう。うん、うん、・・・ありがとうと、こういう祈りはみんなのためだけど、何か、何かをくださいの、お願いしますはしない。

(Interviewer) 神様にお祈りしますか、お祈りの対象は？

(ノロさん) こういうのはないよ、こういうのはない。

(Interviewer) ノロになるために、あの、いろいろ感じられますとか、なんか、つらいプロセスは？

(ノロさん) 継いでいくの、親から子、子から孫って、こういうのはない。修行とはやるよね、あれはこっちではない、こう、継いでいるの、親から子で、ずっと。

(Interviewer) 大体のユタはなる前には、いろいろ神様を感じるといいますので、精神が混乱していますか？

(ノロさん) そう、いるけど、これは靈感があるっていうんだけど、私にはないもん。私、靈感ってないよ。みんなが靈感ある、だから、あんたはこっちあれになるというけど、こういうの感じたことがないです。私、だから、神様はお祈りするのはやるけど、神様があれするというのはない、神様は何が言ってるから、私はそういうのはない、そういう感じはないもん。

(Interviewer) そういう人もいますよね。

(ノロさん) 靈感がある人っているけど、私ってあるかどうかもん、私もわからない。あの人たちは自分で言ってるんで、はたして、こういうの靈感があってっていうのか、神様がなんか、あれするか。こういうのがわからないの、当たる人もいる、当たらない人もいる、だけど、私も祈りだけで、こういうのはあれしない、私は、あ、(聴き取り不明) 上がるけど、たくさん (聴き取り不明) いるけど。こういうのは、あれ、お祈りしに来る人が、自分の健康のお祈りとこれをやってくださいってような、健康のお願いしますじゃなくて、ありがとうの、そう、健康くださってありがとうございまして。お祈りするの、



図 2. ノロさんへのインタビュー風景

健康くださいって言ったことない。ありがとうございますはいうけど、お願いしますは言わない。

ユタのように、個人的なことしませんです。お祈りはしてあげますけど、個人的にあんたはどうかのうのは、うん・・・。

続いて、研究 1. で使用した質問調査紙の各項目について、インタビュアーが口頭で質問項目順に質問した。研究 1. では 5 件法で実施したが、ノロさんからは口頭回答を得た。

Q1. 不思議現象はすべて科学で説明できる

できますかね？

Q2. 占いは当たると思う

占い、当たる？うん、これは、うん、当たる？かな～当たると思いますよ。私は考えられないな～。

Q3. 血液型性格判断を活用すれば、うまく生きることができると思う

こういうのも信じないね。血液でどうかのうの、そういう人いるけど、これも信じないね。

Q4. 占いなどの科学的根拠がないことを信じる・・・(回答なし)

Q5. 家族や知り合いの中に、占い(ユタ)が当たった人がいる

うん、これは、うちはいないね。

Q6. 神仏に無礼を働くと、罰が下ると思う

これもないよ、神様は罰くだらない、それが無礼すると、こういうのは神様はあたらない。

Q7. 神仏が存在すると考えると安心する

これはあると思う、うん。

Q8. 死後の世界に行けば、祖父母や、かわいがっていたペットなど、死者に再び会えると思う

これはどうかな、だから、これはどうかな～、うん、死ぬでしょう？死んでもいない人、考えられないね。ね、死んだらわかるんで。

Q9. 輪廻転生を人信じている・・・(回答なし)

Q10. 受験など、人生の転機には、神仏に頼りたくなる

これはあると思うよ、これはあると思うけど。

Q11. 超能力はおもしろい

面白いですね。

Q12. UFO の存在を信じている

これは信じない。UFO っていない、もう UFO っているなら、どこに来ているはずなのに、これは信じないね、UFO は信じない。

Q13. 心霊写真や心霊現象の話題は会話を盛り上げる

うん・・・これは盛り上げる人がいたら、これは会話はすごい人なら、盛り上げるけどね  
うん・・・どうかな？

Q14. たたりの話題は、会話を盛り上げる

これ、たたりってないよ。たたりってない、これは半々だね、これは見たこともないの・・・  
わからないね。

Q15. 地球以外にも、生命体は存在していると思う

これは半々だね、これは見たこともないの・・・わからねえね。

Q16. 心霊写真にはトリックがあると思う

これはあると思うよ、ね？

Q17. 心霊写真は、単なる思い込みに過ぎない

これもそうだ。

Q18. 不思議現象にはトリックがあると思う

これもそう。

Q19. 心霊写真は本物だと思う

これはどうかな～？信じる人もいれば、うん・・・見たこともないから、信じるかどうかはわからない。

Q20. 不思議現象はすべて科学で説明できる

これは科学で説明できるかな～？これ科学者しかわからん。ね？

Q21. UFO に恐怖を感じる

UFOを見たこともないのに。

Q22. UFO が存在すると考えると不安になる

見たことないから、これはわからんね。

Q23. 超能力は怖い

これはこわいね、こわいっていうけど。

Q24. 占いは怖い・・・(回答なし)

Q25. おまじないは怖い

おまじないは怖い？おまじないするのを、見たことないからね、ね？

Q26. 自分は靈感がある方だ

これはないね、わたしは。

Q27. 霊を見たことがある

これもない、うん。

Q28. たたりに襲われたことがある

これもない。

Q29. 家族や知り合いの中に、たたりに襲われた人がいる

これもないよ。

Q30. 予知夢を見たことがある

これは私にはあるかもね、予知の夢も、これはあるかな。

Q31. ユタが告げることを信じて従う

これもない。

Q32. 自分は神経質

これは神経質の人だね。

Q33. 自分に自信がある

自信がない、これがない。



Q34. 人間は弱い存在だと思う

これはあるよ、うん。

**ノロさんの娘さんのコメント(一部ブログ参照)**

「ノロとユタの違いは何度もお伝えしているので違いを知ってもらえるようになってきました。何故、違いを伝え続けているのかというと。沖縄ではユタが有名でありユタという言葉は全国区ですが、ノロを知っている人は琉球の歴史に興味のある人ぐらいで。ノロの存在はほとんど知られていませんでした」

「そのせいかノロとユタを同じだと勘違いしている人々が多く、ノロ殿内に判断を求め訪ねて来るようになりました。遠くまでノロを頼りに訪ねて来た方々の力になる事ができず申し訳なく思っていました。それからブログでは何度も違いを説明させていただいています。以前よりはノロとユタの違いは分かってもらえるようになったのですが、神人（カミンチュ）はどういう存在なのか。疑問を持つ人がでてきました」

「神人とは日本（琉球を含む）の神職です。神職とは神道、神社において神に奉仕し祭祀や社務を行うものです。カミンチュとは琉球の信仰での神職者の通称です。神人の中でも上の位はノロと呼ばれていました。ノロは祝女という当て字で表現されています。祝は男の巫を意味する文字です」

「ノロは本土でいう巫女よりも男性神職に近いので、男の巫を表す「祝」という字が当て字として使われました。ノロは女性の祈り人ですが、巫女というより男性神職に近い存在だったのです。琉球王国時代、神と交信し神を憑依させる事ができるのは女性に限定されていたため、神官であるノロは女性でした。ノロとは神道の巫女ではなく祭司そのものでした。琉球のカミンチュとはノロとノロのお供である「供のカネ」の呼び名です」

「ノロ制度が廃止になりノロが途絶えている地域（沖縄の各地域）が多いですが、今でも地域から選ばれた女性が祭祀を執り行っています。カミンチュは住んでいる地域の御嶽（ウタキ）や拝所（ウガンシヨ）で祭祀を務める事がお役目です。カミンチュが個人の判断や鑑定をすることはありません。個人の判断や鑑定するのはユタの役目です。沖縄といえばユタ文化と言われるほどユタが有名でしたが、琉球の歴史に興味を持つ方が増え、ノロの存在も知っていただけるようになりましたが、まだまだ役目の違いを知らない人が多いのが現状です」

「ノロは、王府から国王の印の押された辞令書をもって任命されました。琉球王府の支

配下で各地域の祭祀を司るカミンチュのことで、宗教面と政治面両方で重要な役割を果たした王府における国家公務員の役職名です。政治と宗教が一体となっていた琉球王国第二尚氏王統時代（尚真王：在位 1477-1526）、琉球國の王としてもっとも長い期間在位した。王権を中央集権的な国家基盤を固めるために組織改革を実施、琉球地方に古くから伝わる自然崇拜、祖霊信仰の祭祀を司る神女・ノロたちを組織化して国家的な祈りの組織を整備し、琉球第二王朝時代が始まります。王国内の最高権力者を国王、神女ノロ最高位を聞得大君、聞得大君は精神的に国王を支え、国王と王国全土を霊的面で守護し、安寧を祈る、極めて重要な役割を果たしてきました。ノロは琉球王府からの辞令をうけて各地に着任し極めて政治的な意図のもと年間を通し様々な祈りを捧げました。国王より下賜された数々の祭祀祭具宝具のひとつの勾玉（まがたま）と簪（かんざし）です。600年余り前より現在まで代々ノロにより祭祀で使い大切に守って参りました。現在もこの今帰仁ノロ殿内で継保存しています。これまで、勾玉と簪は写真撮影させていただいておりましたけれども長い歴史の中大切に守り続け心込めて祭祀で祈念してきた祭具です。大切に守ってきた祭具を撮影されることは心苦しいとの歴代ノロさんのご意向により平時の撮影は控えさせて頂くことになりました。」

「政治の流れと共に、今帰仁城がその役割を終えたとき今帰仁ノロ殿内は現在の位置に移動し地域の祭祀を担うようになりました。現在でも世襲制の枠のなかで仲尾次家の長女がノロを継いで地域の祭祀を執り行っています。古代ノロは結婚することを認められていませんでした。琉球王国が明治政府によって解体されてからも人々の心に根付く尊き信仰心が消え去るはずなどありません。ノロの祈りも各地域のノロ殿内で守られてきましたが戦後世の中は大きく流れが変わり、長女であることで結婚も許されず、子孫を残し育てる選択肢を奪われてしまうことへの親族の葛藤です。継承、存続させて時代とともに歩み続けることを選り参拜所を、御嶽を、拝所を、歴代ノロ墓を、按司墓を老朽化で壊れても修復の補償はありません。それぞれの生活の上に保存修復にかかる費用と時間を捻出する為に寝食削って東奔西走の日々です。沖縄は本島でも離島でも大きな産業がなく若い人達が働いて生きるためには島を出て行く選択も必要ですから新たにUターン・Iターンの流れもできつつありますが、若い人たちの県外への流出は選択肢の一つです。ノロの家系も例外ではありません。国家公務員として全身全霊を祈りに捧げていられた頃と違って生きるためには糧を得るため働かなくてはなりません」

「今帰仁ノロ殿内も存続させるか、幕を引くか艱難辛苦に喘ぎながらも継続させられる

形を親族一同模索し続けてきました。迷いながら心の芯にある思い、形を変えても存続させたい、神々様の住まう場所は守らなければと、まだまだ暗中模索のなかではありますが、一念通天、強い信念を持って努力を続ければ必ず成し遂げられる。肝に命じて存続させて参ります。ご先祖様が守り続けてきたこの参拝所に住まう神々様、大自然に、拝所、御嶽に、住まわれる神々様が安寧に過ごせ光り輝かれるように、地域のみなさまの祈り、心の拠り所であることは勿論、お陰さまで全国から参拝にお出でくださるみなさまが、心おだやかに清らかに肅々と神々様と向き合いご自身と向き合うことで、始まる一歩、ゆったり満たされてお帰りくださいますように。心地よく参拝して頂けますように。今帰仁ノロ殿内の敷地に生きる龍眼の木と呼ばれる樹齢数百年の古木に太古の昔より生きておられる白龍神様が住まわれています」。

以上のように述べている。



図 3. 今帰仁ノロ殿内の龍眼の木

#### 4. 考察

研究 1 の不思議現象に対する態度について、女性の恐怖因子得点は男性より有意に高か

った。すなわち、女性は男性より UFO や超能力や占いに恐怖を感じるという傾向が考えられる。小城らの研究では、恐怖は「死の恐怖」と高い正の相関が認められ、不思議現象に対する恐怖は自己を超えた力によって自己が損なわれ、ときには死に至ることを恐れる感情に起因していると指摘している。山根（2007）は、死の恐怖に関する研究、自分でなくなることを恐れるのは自分で在ることへの執着だと指摘した。つまり、女性は男性より不思議現象に対する恐怖を感じる理由として、死に対して恐怖が強く生に対して執着が強いということが推察された。

つぎに、相関分析結果から、女性の年齢は恐怖と正の相関が認められた。すなわち、女性は年齢を重ねるにつれて不思議現象に対する恐怖を感じると考えられる。田中（2014）の死に対する態度の研究では、女性は結婚することや子供を持つことにより、自らの死による周囲の人への影響を配慮するようになり、死を現世からの解放であるとする考え方をしなくなることが明らかになった。換言すれば、女性は男性より重要なライフイベントを通じて死に対する態度が変容していくと考えられる。女性は結婚し妊娠すれば、人生において死が肯定的な意味を持つという考える傾向が低下し、生に対してよりポジティブな態度で生きていたいという考え方が上昇するのではないだろうか。このように女性は男性より、特に社会人女性は UFO や超能力や占いに恐怖を感じ、リスクを冒す可能性が小さい理由は、死に対する恐怖を前提とし、妊娠あるいは結婚などのライフイベントを通じて人生の生きがいや生きていくための信念が生じ、生に対する執念が強くなると考えられる。

また、女性の恐怖因子と「ユタが告げることを信じて従う」との間で高い相関が認められた。中村（2011）の研究では、科学への不信や科学よりもじこの認知や感情を優先したいという志向がスピリチュアルな言説への関心と連動しているのは、女性に限ってのことであったと報告している。なぜ多くの女性はスピリチュアルなことを信じることを通じて心の慰めを求めるかについて、女性は格差社会で男性よりさらに重圧を受けていると推察される。小池（2007）はその理由を、女性は職場での自己実現と地位達成が困難であることと、収入が高い男性と結婚してセレブな主婦生活になることも実現しにくいという社会の現状を指摘している。また、小松（2012）は、女性はスピリチュアリティ活動から充実感を得られると述べている。さらに、女性は社会的圧力の下で、本質的な人格である「内キャラ」と対人関係をうまくさせる「外キャラ」との葛藤が生じると考えられる。「内キャラ」と「外キャラ」の間にズレが生じる場合、「内キャラ」の動機づけを正当化させるため、神仏や心霊や前世への信奉を通じて、「癒し」を求めているのかもしれない。これらのこと

から、社会的に男性よりも弱い存在である女性たちは、自分の悩みや苦しみを克服するためにスピリチュアルな言説、あるいはユタが告げることを信じることを通じてエネルギーを得ていると考えられる。

大橋は、社会心理学の立場からシャーマニズムへの依存深度（深度Ⅰ：レディネス形成段階、深度Ⅱ：随伴接触段階、深度Ⅲ：分化依存段階、深度Ⅳ：信仰段階）を提唱し、その前提としてシャーマニズムに対する個人の態度を、認知（分化・未分化）・感情（親和・反発）・行動（依存行動の有無・内容）の3側面から見ていくことの必要性を示している。本研究における女性の恐怖因子と「ユタが告げることを信じて従う」との関係性は、行動の側面であると考えられる。しかし、本研究では行動が認知や感情を伴った態度の表出であるかは測定できず、信じて従うことを重要な認知や感情を随伴しない至極単純な習慣行動なのかもしれない。今後の課題として、それらの行動を選択する要因と重要性について明らかにすることが求められるだろう。

研究2では、今帰仁ノロ殿内のノロさんと、次代ノロ継承予定者でありノロさんの次女の証言から、一般市民間ではノロとユタの混同があることが認められた。ノロは、かつては公の職務であり、祈りを捧げることに尽き、ユタは、民間の霊能者であり市民生活の示唆役であることを再度語られた。ユタには、対面聞き取り調査の証言にもあるように、とりわけ人生の岐路におけるアドバイザーとしての役割が占められていると考えられる。しかしノロは、相談することは主な役割ではなく、祈りを捧げる役割であることが明らかになった。

ノロさんは、祈りについて、「お祈りしに来る人が、自分の健康のお祈りとこれをやってくださいっていうような、健康のお願いじゃなくて、ありがとうの、そう、健康くださってありがとうございますって。お祈りするの、健康くださって言ったことない。ありがとうございますはいうけど、お願いしますは言わない。ユタのように、個人的なことしませんです」と述べていることに着目できる。神または神に類似した存在に対して依存や要請、さらに自己成就をするための期待をするのではなく、感謝の気持ちを伝えるだけだと解釈される。このことから、ユタの役割である一般市民の未来を予測してね行動を示唆するということとは解離されていることが明らかであると考えられた。神の存在については語られなかった。

それらの話をうかがった後で、ノロさんの非科学的現象についての認知を、研究1で使

用した項目を中心に質問した。まず、自己に関わる質問の回答傾向を確認すると、おまじないは怖い？「おまじないは怖い？おまじないするのを、見たことないからね、ね？」。自分は靈感がある方？「これはないね、わたしは」。霊を見たことがある？「これもない、うん」。たたりに襲われたことがある？「これもない」。家族や知り合いの中に、たたりに襲われた人がいる？「これもないよ」。予知夢を見たことがある？「これは私にはあるかもね、予知の夢も、これはあるかな」。ユタが告げることを信じて従う？「これもない」。自分は神経質？「これは神経質の人だね」。自分に自信がある？「自信がない、これがない」。人間は弱い存在だと思う？「これはあるよ、うん」。という回答を得た。自己の靈感を否定し、霊を見たことがないとお話された。宮川によると、ユタは先天的な能力を持っているのが一般的であり、ノロは必ずしもそうではないと指摘している。ノロさんは、靈感について話している時、自分にはまったく靈感がなく、沖縄で人気のいわゆるパワースポットなどにも感じないと述べられた。おまじないや祟りについて否定し、唯一、予知夢についての経験を認めている。また、神経質で自信がなく弱い人間であると自己認知されている。このことは、筆者らが面談させていただいた会話からは、ノロさんには仰々しさや精神性は感じられず、沖縄の市井のオバアたち（お婆さん）と相違ない印象を受けた。

さらに、その他の質問の回答傾向を確認すると、占いは当たると思う？「占い、当たる？うん、（中略）私は考えられないな」。血液型性格判断を活用すれば、うまく生きることができると思う？

「こういうのも信じないね。血液でどうのこうの、そういう人いるけど、これも信じないね」。家族や知り合いの中に、占いやユタの言うことが当たった人がいる？「うん、これはうちはいないね」。神仏に無礼を働くと罰が下ると思う？「これもないよ、神様は罰くだらない、それが無礼すると、こういうのは神様はあたらない」。神仏が存在すると考えると安心する？「これはあると思う、うん」。死後の世界に行けば、祖父母や、かわいがっていたペットなど、死者に再び会えると思う？「これはどうかな、だから、これはどうかな～、うん、死ぬでしょう？死んでもいない人、考えられないね。ね、死んだらわかるんで」。超能力はおもしろい？「面白いですね」

これはどうかな～？信じる人もいれば、うん・・・見たこともないから、信じるかどうかはわからない」という回答を得た。

これらの発言からは、ノロさんの精神性や憑霊性などを推察することは困難である。佐藤（2018）によると、神人交流を、霊媒型、予言者型、見者型、精霊統制型に分別してい

る。本研究では、ノロさん間の個人差の有無は明らかにされなかった。

塩月・名嘉(2002)は、シャーマンであるユタの成巫過程において、その多くがカミダリーという心身「異常」状態を経験すると指摘している。ユタについて、これまで精神医学の面からカミダリー症候群も言われてきたが、いわゆる精神分裂症と少し違うユタが特有な巫病であると報告している。本研究では、ノロさんはそもそも靈感がないから精神混乱したこともないと語られた。ノロは古くから伝わってきた伝統を引き継いだけであり、靈感についての引き継ぎは確認した先行研究からは見られなかった。ノロさんはご自身に靈感がないと主張したことは事実だと考えられる一方、靈感などについての話題はあまりに重すぎるため、あるいは他の言及できない原因で触れたくないことも推察された。なにより、面談調査をさせていただいた筆者らの理解におよぶ次元を超越していることが要因かもしれない。

佐々木(1984)は、シャーマニズムには、①トランスという特別の精神状態、②神仏・精霊などの超自然的存在との直接接触交流や交信、③社会的に一定の役割を持つ信仰行動の3つの要素があると提唱した。元来、ノロは琉球王府に任命され、沖縄の各地域で宗教面と政治面での効果を発揮した。ノロは人々に精神上に安定感をもたらす社会の平穏を保つ役割をしたと考えられる。現在では、政権の変遷、地方組織の変化、人口の流出などと共にノロは政治面での影響はなくなり、宗教と文化の領域に影響を与えている。

プラトンの「洞窟の比喻」の議論においては、囚人たちの一生は洞窟の中でしかなく、洞窟の中の壁こそが真実だと考えられている。不思議現象の信奉には狭義の世界観しか存在せず背後のアイデアの認識におよぶことがないことも影響しているかもしれない。しかし、影絵の世界を現実だと思いつくことの是非を問うよりも、ライフスタイルの基盤になるなら咎める理由は見あたらない。

なお、本稿校了時に、沖縄県那覇市にある沖縄のシンボルともいえる首里城が全焼しました。痛恨の極みです。復元を祈ります。

## 5. 引用文献

- 濱雄亮(2011) 足枷から資源へ ユタ評価の重層性 サイバー大学紀要(3), 67-87  
 小池靖(2007) テレビ霊能者を斬る——メディアとスピリチュアルの蜜月 ソフトバンク  
 小松 加代子(2012) スピリチュアリティと女性-ジェンダーの視点から 紀要 Vol. 4, 57

-70

小城英子 坂田浩之 川上正浩(2008) 不思議現象に対する態度：態度構造の分析および類型化 社会心理学研究 23(3), 246-258

中村晋介 (2011) 「スピリチュアル・ブーム」をどうとらえるか--福岡県内の大学生を対象とした意識調査より 福岡県立大学人間社会学部紀要 19(2), 19-31

中山盛茂 (1990) のろ調査資料 ボーダーインク

長野泰彦 (1971) シャーマニズムに関する学説の諸相 東洋学報 54(3), 90-104

松井豊 (2001) 不思議現象を信じる心理的背景(1) 筑波大学心理学研究 (23), 67-74

大橋英寿 (1998) 沖縄シャーマニズムの社会心理学的研究 弘文堂

渋谷研 (1922) 対峙する神々：宗教的職能者間の対立と共存をめぐる一考察 民族学研究 56(4), 361-384

塩月亮子 (2012) 沖縄シャーマニズムの近代—聖なる狂気のゆくえ 森話社

塩月亮子 (2005) 社会病理と沖縄シャーマニズム —不登校児童生徒とその親のための相互扶助共同体の事例から— 日本橋学館大学紀要 4(0), 87-95

塩月亮子 名嘉幸一 (2002) 「肯定的狂気」としてのカミダーリ症候群：心理臨床家を訪れたクライアントのケース分析 日本橋学館大学紀要 1(0), 109-123

佐々木伸一 (1988) シャーマンの類型：日本および周辺の地域に関して 筑波大学歴史人類学系民族学研究室 族ヤカラ(7), 1-46

佐々木宏幹 (1984) シャーマニズムの人類学 弘文堂

佐藤憲昭 (2018) シャーマニズムの現在 —神人交流の特色をめぐる— 駒澤大学「文化」第(36), 1-24

田中美帆 (2014) 成人期の生と死に対する態度の検討：成人期前期に経験されるライフイベントに着目して 神戸大学発達・臨床心理学研究 13, 27-31

丹藤克也 (2017) 顕在的・潜在的不思議現象信奉に素朴概念および認知的制御が及ぼす影響 愛知淑徳大学論集. 心理学部篇 (7), 39-48

高見寛孝 (2018) 心理療法とシャーマニズム 二松学舎大学論集 Bulletin of Nishogakusha University (61), 159-182

湧上元雄 (1997) 沖縄の聖地 拝所と御願 むぎ社

山根一郎 (2007) 恐怖の現象学的心理学 人間関係学研究 (5), 113-129

<https://ofukuwake-okinawa.jp/nakijin-noro-douchi/>今帰仁ノロ殿内ブログ